



地元の広葉樹林を生かした なめこ生産業で林業を支える

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌
 Niigata Forestry Magazine vol.4
 File 04
 林業事業体レポート ▶
ゆきぐに森林組合
 上越市



①② 工場で作られるなめこは全国各地のスーパーなどへ出荷されている ③ 平成23年に十日町市松之山小谷に完成した「松之山なめこ工場」では、培地の仕込みから培養・生産・パッケージまでを行う。工場設立は地域の雇用にも貢献している



森林技術員は重機オペレーターの資格も取得している。プロセッサで枝払いと造材作業を行うオペレーターは森林技術員経験7年の熊倉広大さん

取材で訪れたのは、上越市浦川原区の法定寺にある利用間伐現場。山が浅く、谷底に集落がある約3ヘクタールの森林は、斜面が急峻で、伐採も材の搬出にも時間がかかる。限られた条件の下、どのように効率的に作業を進められるかは、森林技術員の腕の見せ処となる。

平成3年に安塚町森林組合、浦川原村森林組合、大島村森林組合、松之山町森林組合、松代町造林組合が合併して設立された、ゆきぐに森林組合。昭和30年代から全国的に広葉樹を伐採し、スギを植林する国の政策が進められる中、スギの拡大造林をする際に伐採した広葉樹になめこの菌を植え付けたことをきっかけに食品加工を始めた。平成23年には十日町市松之山に大規模なめこ新工場をオープンし、なめこ生産に特化した地場産業化を目指す。

しかし組合の主となる仕事は間伐などの森林整備事業。なめこ生産が安定した分、赤字覚悟で森林所有者に利用間伐を勧める。「それが私たちの一番の仕事ですから」と組合長は笑顔で話した。

④ 前列左から森林技術員の佐藤正さん、熊倉広大さん、後列左から森林施業プランナーの木南拓也さん、森林技術員の内山正典さん、森林事業部副部長の亦野利也さん、森林技術員の田中憲一さん、小出英一さん ⑤ 曲がっている木の枝払いはチェーンソーで行う ⑥ 高性能林業機械を活用し作業を効率化。プロセッサで倒した木を枝払いし、決められた長さに造材する



緑の担い手



熊倉 広大さん
Kodai Kumakura
[年齢:26歳 林業経験:7年]

中学からの夢を叶えました！

中学生の頃にテレビでチェーンソーを使って木を切る様子を見て、林業家を夢見て地元の農業高校林産課を卒業しました。この仕事が好きなのでどんな仕事でも楽しいです。体力的にはキツイこともありませんが季節を感じられるなど、魅力がたくさんあります。今後の目標は組合をより良い形に変えていきたい。経験を積んでスキルを増やして、技術者としてトップを目指したいです。



佐藤 正さん
Tadashi Sato
[年齢:24歳 林業経験:6年]

仲間に恵まれた楽しい職場

この仕事に慣れるまでは体力的に辛いこともたくさんありましたが、とにかく職場の雰囲気が良いのです。先輩もやさしいし、本当に良い仲間たちに恵まれていると思います。仕事では、重機のオペレーターも木を伐ることも楽しいですが、常に緊張感があります。木登りは特に怖いです。将来的には現場を仕切るようになるいきたいと思っています。ずっとこの仕事を続けていきたいですね。



「大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち」

事業体Data



ゆきぐに森林組合

住所/上越市大島区棚岡1569-1 電話/025-594-2041
設立/平成3年 資本金/1億5621万円
従業員数/82人(森林部門17人)
勤務時間/8:00~17:00 主な勤務地/上越市、十日町市
主な従事業務内容/森林整備、木材加工、きのこ製造、食品加工ほか

事業主コメント ゆきぐに森林組合 代表理事組合長 村松二郎さん

昭和30年代後半からなめこ栽培や食品加工業を始めました。この地域は山も低く、スギも育ちにくい。好条件でない中、本業以外の仕事に着手しながらここまでやってきたのは、地域の山を守るためです。今は間伐で利益を出すのはなかなか難しいですが広葉樹の利用も考えて、間伐を進めていきたいです。



①木を倒す前には幹の曲がりや枝ぶりなど木の重心を見極めてから伐倒作業に入る ②木を倒したい方向に受け口を入れる。現場が斜面になっているので足場の確保も困難だ ③倒した木の枝払いを行う、森林技術員の小出英一さん

